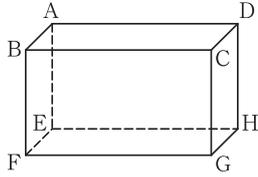


118. 図のような直方体 $ABCD - EFGH$ を考える。以下の問いに答えよ。



- (1) 線分 CE と三角形 AFH との交点を J とする。 J が三角形 AFH の重心となることを示せ。
- (2) 線分 CE と三角形 BDG との交点を K とする。三角形 AEJ , 三角形 AJK , 三角形 ACK の面積がすべて等しくなることを示せ。

(18 名古屋市立大・経, 医)

考え方 話の流れ的には、直線 EC と平面 AFH の交点を求めるというのが自然である。 $\vec{EF}, \vec{EH}, \vec{EA}$ を基底として \vec{EJ} を表す。

▶解答◀ (1) $\vec{EC} = \vec{EF} + \vec{EH} + \vec{EA}$

である。 J は直線 EC 上にあるから、

$$\vec{EJ} = s\vec{EC} = s(\vec{EF} + \vec{EH} + \vec{EA}) \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

と書ける。また、 J は平面 AFH 上にあるから、

$x + y + z = 1$ として

$$\vec{EJ} = x\vec{EF} + y\vec{EH} + z\vec{EA} \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

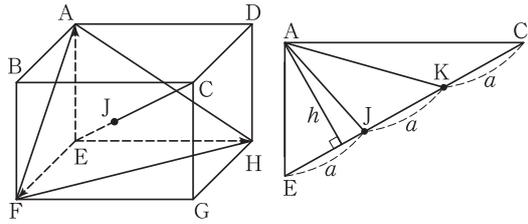
と書ける。 $\vec{EF}, \vec{EH}, \vec{EA}$ は 1 次独立であるから $\textcircled{1}, \textcircled{2}$ の係数を比べ

$$x = y = z = s$$

である。 $x + y + z = 1$ に代入して $s = \frac{1}{3}$ を得る。

$$\vec{EJ} = \frac{1}{3}(\vec{EF} + \vec{EH} + \vec{EA})$$

であり、 J は三角形 AFH の重心である。また、 J は EC を $1:2$ に内分する。



(2) 同様に、対称性より (あるいは、 $\vec{CD}, \vec{CB}, \vec{CG}$ で考えれば $\vec{CK} = \frac{1}{3}(\vec{CD} + \vec{CB} + \vec{CG})$ となり) EC と平面 BDG の交点 K は三角形 BDG の重心であり、 K は CE を $1:2$ に内分する。ゆえに J, K は EC を 3 等分する。 $EJ = JK = KC = a$ とし、 A から CE に下ろした垂線の長さを h とすると

$$\triangle AEJ = \triangle AJK = \triangle ACK = \frac{1}{2}ah$$

であり、 $\triangle AEJ, \triangle AJK, \triangle ACK$ の面積はすべて等しい。

177. 実数 x に対して, $[x]$ は x 以下の最大の整数とする. 数列 $\{a_n\}$ と $\{b_n\}$ を

$$a_1 = 1, a_{n+1} = a_n + [\sqrt{n+1}]$$

$$b_1 = 1, b_{n+1} = b_n + (-1)^n [\sqrt{n+1}]$$

($n = 1, 2, 3, \dots$) で定義すると

(1) $a_{10} = \square$, $b_{10} = \square$ である.

(2) $a_n \geq 100$ となるのは $n \geq \square$ のときである.

(3) $b_n = 5$ となる最初の項は $n = \square$ のときである.

(4) 一般に, $m = [\sqrt{n}]$ とすると

$$a_n = \frac{\square mn + \square m^{\square} + \square m^2 + \square m}{\square}$$

となる. (18 慶應大・環境情報)

▶**解答**▶ (1) 与式は見づらいから $a_n = \dots$, $b_n = \dots$ の形に書き換える.

$$a_1 = 1, a_n = a_{n-1} + [\sqrt{n}] \quad (n \geq 2)$$

$$b_1 = 1, b_n = b_{n-1} + (-1)^{n-1} [\sqrt{n}] \quad (n \geq 2)$$

$$a_2 = a_1 + [\sqrt{2}] = 1 + 1$$

$$a_3 = a_2 + [\sqrt{3}] = 1 + 1 + 1$$

$$a_4 = a_3 + [\sqrt{4}] = 1 + 1 + 1 + 2$$

このように, 平方数を境に階差が変わる. 階差 $[\sqrt{n}]$ が同じになる a_n で群を作る. ただし, 第何群という言葉はしないでおく.

$a_4 \sim a_8$ は (5個ある) 階差は 2

$a_9 \sim a_{15}$ は (7個ある) 階差は 3

...

$a_{k^2} \sim a_{(k+1)^2-1}$ は $(2k+1)$ 個ある) 階差は k

...

$a_{(m-1)^2} \sim a_{m^2-1}$ は $(2m-1)$ 個ある) 階差は $m-1$

$m^2 \leq n < (m+1)^2$ のとき階差は m である.

a_{10} は階差が 3 の群 (その第 1 項は a_9 , 第 2 項は a_{10} である).

$$a_{10} = 1 \cdot 3 + 2 \cdot 5 + 3 \cdot 2 = 19$$

となる.

$$b_2 = b_1 - [\sqrt{2}] = 1 - 1$$

$$b_3 = b_2 + [\sqrt{3}] = 1 - 1 + 1$$

$$b_4 = b_3 - [\sqrt{4}] = 1 - 1 + 1 - 2$$

添え字が偶数のときに新たに加算される値は負, 添え字が奇数のときに新たに加算される値は正である.

$b_4 \sim b_8$ は (5個ある) 階差は $-2, 2, -2, 2, -2$ となり, ここでの階差の総和は -2

$a_9 \sim a_{15}$ は (7個ある) 階差は $3, -3, 3, -3, 3, -3, 3$ となり, ここでの階差の総和は 3

$$b_{10} = 1 + (-1 + 1) + (-2 + 2 - 2 + 2 - 2) + (3 - 3) = -1$$

(2) $a_n = 1 \cdot 3 + 2 \cdot 5 + 3 \cdot 7 + 4 \cdot 9 + \dots$ となっていく.

$$a_{24} = 1 + 1 \cdot 2 + 2 \cdot 5 + 3 \cdot 7 + 4 \cdot 9 = 70$$

あと 30 増えるのは 6 項後で,

$$a_{30} = a_{24} + 5 \cdot 6 = 100$$

である. $a_n \geq 100$ になるのは $n \geq 30$ のときである.

(3) $b_1 = 1, b_2 = 0, b_3 = 1$ で, 以後,

$b_4 \sim b_8$ は階差が $-2, 2, -2, 2, -2$ で b_n は $-1, 1, \dots, -1$

$b_9 \sim b_{15}$ は階差が $3, -3, \dots, 3$ で b_n は $2, -1, \dots, 2$

$b_{16} \sim b_{24}$ は階差が $-4, 4, \dots, -4$ で b_n は $-2, 2, \dots, -2$

$b_{25} \sim b_{35}$ は階差が $5, -5, \dots, 5$ で b_n は $3, -2, \dots, 3$

$b_{36} \sim b_{48}$ は階差が $-6, 6, \dots, -6$ で b_n は $-3, 3, \dots, -3$

$b_{49} \sim b_{63}$ は階差が $7, -7, \dots, 7$ で b_n は $4, -3, \dots, 4$

$b_{64} \sim b_{80}$ は階差が $-8, 8, \dots, -8$ で b_n は $-4, 4, \dots, -4$

とくり返す. そして

$$b_{81} = -4 + 9 = 5$$

$b_n = 5$ となる最初の項は $n = 81$ のときである.

(4) $n \geq 4$ のとき, $m \geq 2$ であり,

$$\begin{aligned} a_n &= \sum_{k=1}^{m-1} k(2k+1) + (n-m^2+1)m \\ &= \sum_{k=1}^{m-1} (2k^2+k) + (n-m^2+1)m \\ &= 2 \cdot \frac{1}{6} m(m-1)(2m-1) + \frac{1}{2} m(m-1) + mn - m^3 + m \\ &= \frac{1}{6} m(m-1)\{2(2m-1)+3\} + mn - m^3 + m \\ &= \frac{1}{6} m(m-1)(4m+1) + mn - m^3 + m \\ &= \frac{1}{6} (4m^3 - 3m^2 - m) + mn - m^3 + m \\ &= \frac{6mn - 2m^3 - 3m^2 + 5m}{6} \end{aligned}$$

$n = 1, 2, 3$ のとき, $m = 1$ でこの式は成り立つ.